

青森県内の消費生活相談受付状況（令和6年4月～9月）のポイント

【相談全体に関して】

- 令和6年4～9月の消費生活相談件数は計 4,091 件で、前年同期と比較して 43 件の増加（増加率 1.1%）となっています。
- うち特殊詐欺の相談は計 331 件で、前年同期と比較し 26 件（7.3%）減少しました。一方、特殊詐欺のうち、FX・暗号資産などの投資詐欺に関する相談は 14 件（20.3%）増加しています。

【特徴・変化】

① 高齢者からの相談件数は微増

- ・ 65歳以上の高齢者からの相談件数 1,540 件（前年同期比+61 件、増加率 4.1%）
- ・ 相談全体に占める割合 37.6%（← 前年同期 36.5%）

② 各年代の相談状況（* 矢印（→）は件数が多い相談）

- ・ 20歳未満からの相談件数 92 件（前年同期比+3 件、増加率 3.4%）
→ 教養・娯楽サービス（インターネットゲームやアダルトサイトなど）
- ・ 20代からの相談件数 283 件（前年同期比▲25 件、減少率 8.1%）
→ 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 30代からの相談件数 278 件（前年同期比▲26 件、減少率 8.6%）
→ 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 40代からの相談件数 474 件（前年同期比+5 件、増加率 1.1%）
→ 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 50代からの相談件数 668 件（前年同期比▲6 件、減少率 0.9%）
→ 保健衛生品（化粧品、医薬品など）
- ・ 60代からの相談件数 756 件（前年同期比▲5 件、減少率 0.7%）
→ 保健衛生品（化粧品、医薬品など）
- ・ 70代以上からの相談件数 1,174 件（前年同期比+68 件、増加率 6.1%）
→ 商品一般（フィッシング詐欺、架空請求詐欺など）

③ 特殊詐欺のうち、FX・暗号資産などの投資詐欺に関する相談が増加

- ・ 特殊詐欺に関する相談件数 331 件（前年同期比▲26 件、減少率 7.3%）
- ・ 相談全体に占める特殊詐欺の割合 8.1%（← 前年同期 8.8%）
- ・ 特殊詐欺のうち、投資詐欺相談件数 83 件（前年同期比+14 件、増加率 20.3%）

④ 定期購入に関する相談が増加

- ・ 定期購入（化粧品・健康食品等） 519 件（前年同期比+134 件、増加率 34.8%）

⑤ 副業に関する相談が増加

- ・ 副業（登録料を支払ったが稼げない等） 120 件（前年同期比+7 件、増加率 6.2%）

令和6年4-9月における青森県内の消費生活相談状況

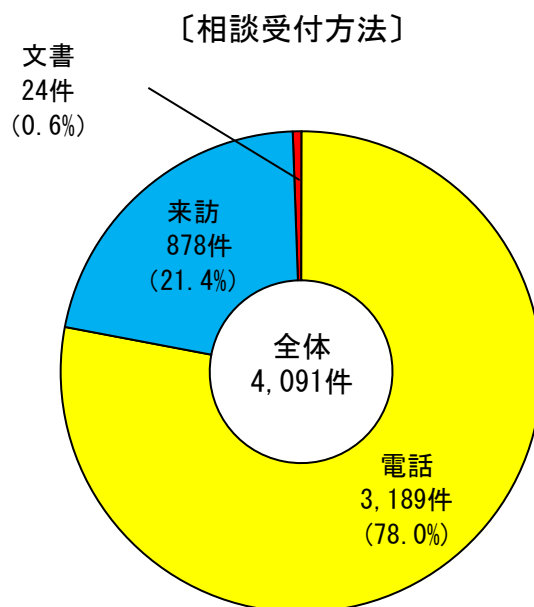
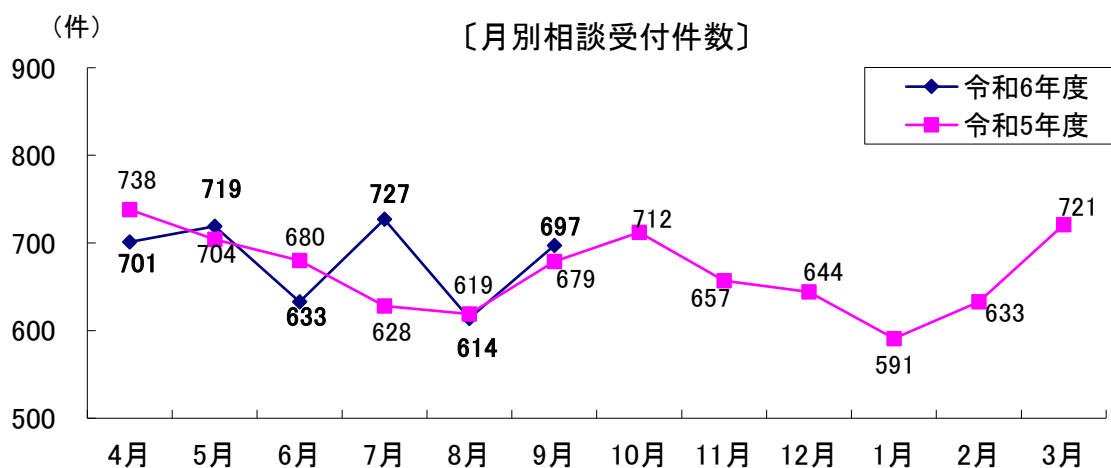
1 相談状況

(1) 概況

令和6年4-9月に県内の消費生活相談窓口で受け付けた消費生活に関する相談件数は、4,091件（苦情相談3,430件、問合せ660件、要望1件）であり、前年同期と比較して43件（1.1%）増加しています。

（単位：件）

項目	年度	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		3,430	3,420	10	100.3%
問合せ		660	628	32	105.1%
要望		1	0	1	-
計		4,091	4,048	43	101.1%

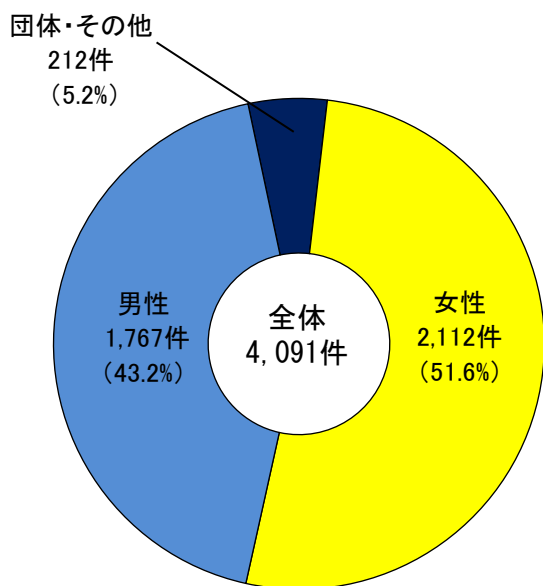


(2) 契約当事者の状況

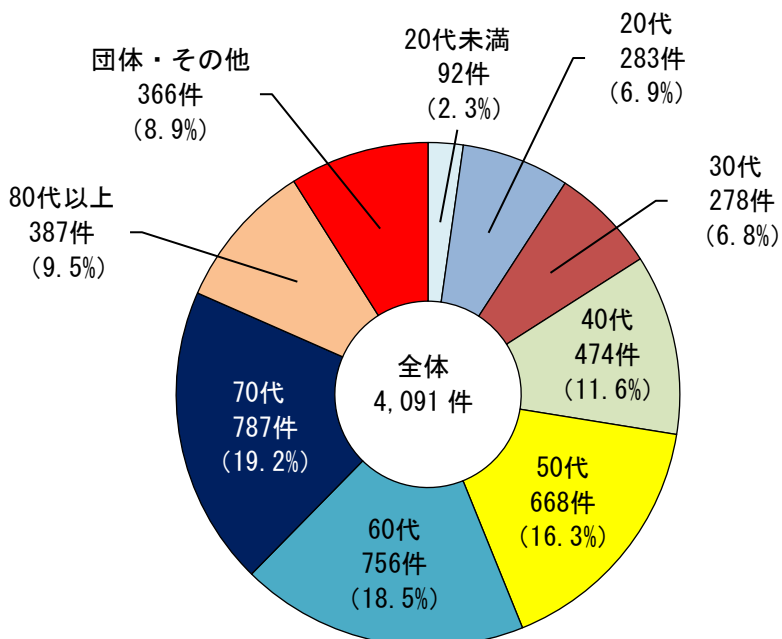
契約当事者を性別で見ると、女性が2,112件で、全体の51.6%を占めています。年代別では、70代が787件(19.2%)と最も多く、次いで60代が756件(18.5%)となっています。

また、契約当事者を職業別で見ると、無職が1,612件(39.4%)と最も多く、次いで給与生活者が1,488件(36.4%)となっています。

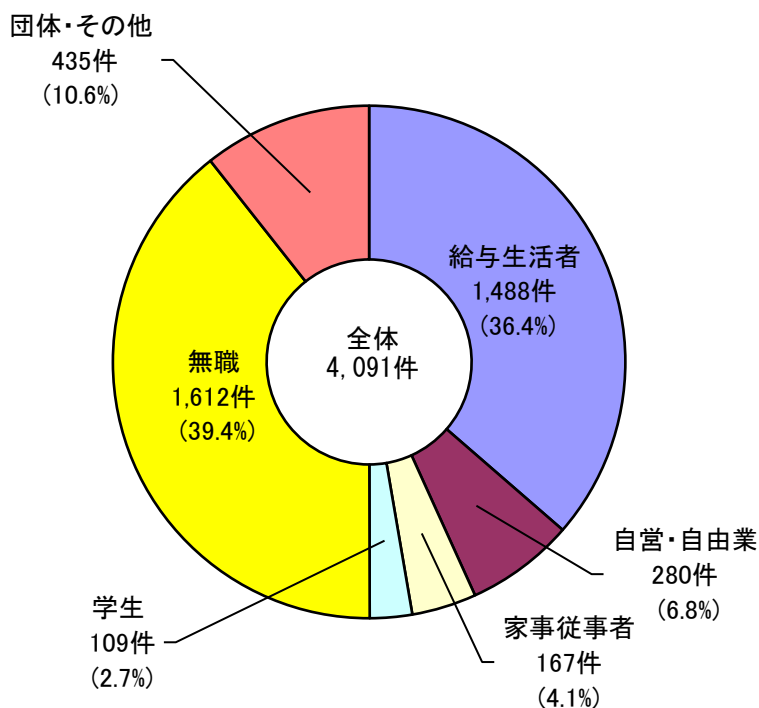
〔契約当事者の性別〕



〔契約当事者の年代〕



〔契約当事者の職業〕



(3) 主な商品・役務別の相談状況

(単位：件)

	商品・役務名	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	545	515	30	105.8%
2	金融・保険サービス	417	374	43	111.5%
3	保健衛生品	398	347	51	114.7%
	運輸・通信サービス	398	320	78	124.4%
5	食料品	372	268	104	138.8%
	その他	1,961	2,224	▲263	88.2%
	計	4,091	4,048	43	101.1%

※商品役務別の詳細は P17 商品・役務別内訳表参照

1 「商品一般」

令和6年4-9月の相談件数は545件で、前年同期より30件(5.8%)増加しています。商品一般は、商品が多岐にわたる相談や、商品を特定できない相談が分類されます。また、「消費料金」等の債務内容が不明な架空請求の相談や宅配業者等を騙るフィッシング詐欺に関する相談が含まれています。

2 「金融・保険サービス」

令和6年4-9月の相談件数は417件で、前年同期より43件(11.5%)増加しています。最も多いのは、融資サービスに関する相談の242件で、前年同期201件から41件(20.4%)増加しています。次いで、クレジットカードの入退会に関する相談や暗号資産やFXの投資に関する相談が含まれる他の金融関連サービスに関する相談が多くなっています。

3 「保健衛生品」

令和6年4-9月の相談件数は398件で、前年同期より51件(14.7%)増加しています。化粧品に関する相談が319件で全体の80.2%を占めています。保健衛生品のうち、定期購入に関する相談は309件となっており、前年同期235件より74件(31.5%)増加しています。

「運輸・通信サービス」

令和6年4-9月の相談件数は398件で、前年同期より78件(24.4%)増加しています。最も多いのは、インターネット通信サービスに関する相談の164件で前年同期131件から33件(25.2%)増加しています。また、固定電話に関する相談は115件で前年同期62件より53件(85.5%)増加しています。総務省等を騙って、「あと2時で電話が使えなくなる」という自動音声が出る不審な電話に関する相談が増加したことが要因と考えられます。

5 「食料品」

令和6年4-9月の相談件数は372件で、前年同期より104件(38.8%)増加しています。最も多いのは、健康食品の251件で、前年同期159件より92件(57.9%)増加しています。健康食品のうち、186件は定期購入に関する相談となっており、前年同期96件より90件(93.8%)増加しています。

(4) 契約当事者年代別商品・役務相談状況（上位3位）

契約当事者の年代別の商品・役務別上位3位は以下の表のとおりとなっています。20歳未満では、教養・娯楽サービスが1位になっています。その内訳を見ると、インターネットゲームやアダルト情報の相談が主となっています。20代、30代、40代では、融資サービスなどの金融・保険サービスが1位になっています。

50代、60代は、化粧品の定期購入などの保健衛生品に関する相談が1位となっています。70代は、不審な電話やメールなどの商品一般が1位となっています。80代以上は、食料品が1位になっています。健康食品の定期購入や強引な電話勧誘、注文した覚えのない健康食品が届いたなどの相談が多くなっています。

(単位：件)

	1		2		3	
20歳未満	教養・娯楽サービス	37	食料品	15	商品一般	8
20代	金融・保険サービス	47	教養・娯楽サービス	32	レンタル・リース・貸借	29
30代	金融・保険サービス	45	レンタル・リース・貸借	27	教養娯楽品	26
40代	金融・保険サービス	69	教養・娯楽サービス	63	運輸・通信サービス	40
50代	保健衛生品	92	商品一般	89	食料品	65
60代	保健衛生品	142	商品一般	101	食料品	79
70代	商品一般	135	運輸・通信サービス	126	食料品	80
80代以上	食料品	62	商品一般	54	運輸・通信サービス	41
その他・不明	商品一般	88	運輸・通信サービス	41	他の役務	38

(5) 相談に係る契約等の既払金額

令和6年4-9月の相談に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額のすべてが増加しています。

	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	1,018人	1,003人	15人	101.5%
既払金額合計	712,628千円	413,375千円	299,253千円	172.4%
平均既払金額（一人当たり）	700千円	412千円	288千円	169.9%
最大既払金額	42,500千円	36,000千円	6,500千円	118.1%

2 消費生活相談における特殊詐欺の状況

(1) 概況

令和6年4-9月の特殊詐欺に関する相談件数は331件で、前年同期より26件(7.3%)減少しています。類型別にみると、振り込め詐欺の106件(相談件数の32.0%)が最も多く、次いでフィッシング詐欺の86件(相談件数の26.0%)、FX・暗号資産などの投資詐欺の83件(同25.1%)となっています。

(単位：件)

類 型	年 度	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
振り込み詐欺		106	98	8	108.2%
	架空請求詐欺	93	85	8	109.4%
	還付金詐欺	9	13	▲4	69.2%
	融資保証金詐欺	3	0	3	-
	オレオレ詐欺	1	0	1	-
フィッシング詐欺		86	96	▲10	89.6%
F X・暗号資産などの投資詐欺		83	69	14	120.3%
ウイルス感染の偽警告（サポート詐欺）		22	21	1	104.8%
ワンクリック詐欺		21	26	▲5	80.8%
出会い系サイト・アプリ		13	22	▲9	59.1%
老人ホームの入居権詐欺		0	25	▲25	-
合 計		331	357	▲26	92.7%

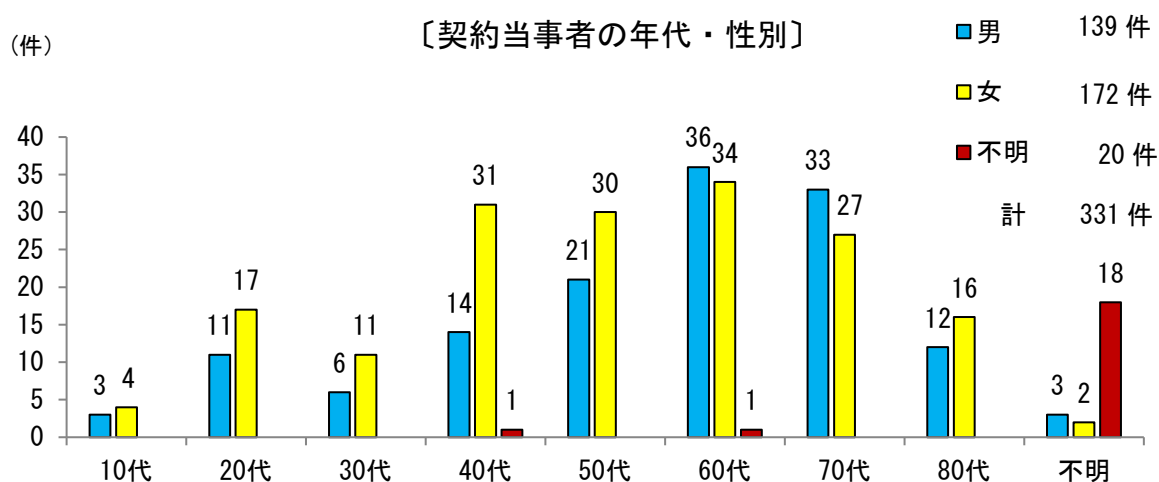
なお、それぞれの特殊詐欺の類型と、消費生活相談において分類される主な商品・役務名との対応関係は以下のとおりです。

(参考) 主な商品・役務別分類（P4）との対応状況

類型		主な商品・役務名
振り込み詐欺	架空請求詐欺	商品一般、教養・娯楽サービス
	還付金詐欺	商品一般、保健・福祉サービス
	融資保証金詐欺	金融・保険サービス
	オレオレ詐欺	相談その他
フィッシング詐欺		商品一般
F X・暗号資産などの投資詐欺		金融・保険サービス、教養・娯楽サービス
ワンクリック詐欺		教養・娯楽サービス
ウイルス感染の偽警告（サポート詐欺）		他の役務、教養・娯楽サービス
出会い系サイト・アプリ		教養・娯楽サービス
老人ホームの入居権詐欺		保健・福祉サービス

(2) 特殊詐欺に係る当事者の状況

令和6年4-9月における特殊詐欺に係る当事者を年代・性別で見ると、60代男性が36件で最も多く、次いで60代女性の34件となっています。



(3) 特殊詐欺に係る既払金額

令和6年4-9月の特殊詐欺に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額のすべてが増加しています。

	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	73人	66人	7人	110.6%
既払金額合計	148,812千円	83,671千円	65,141千円	177.9%
平均既払金額(一人当たり)	2,039千円	1,268千円	771千円	160.8%
最大既払金額	30,000千円	15,470千円	14,530千円	193.9%

3 相談全般における特徴

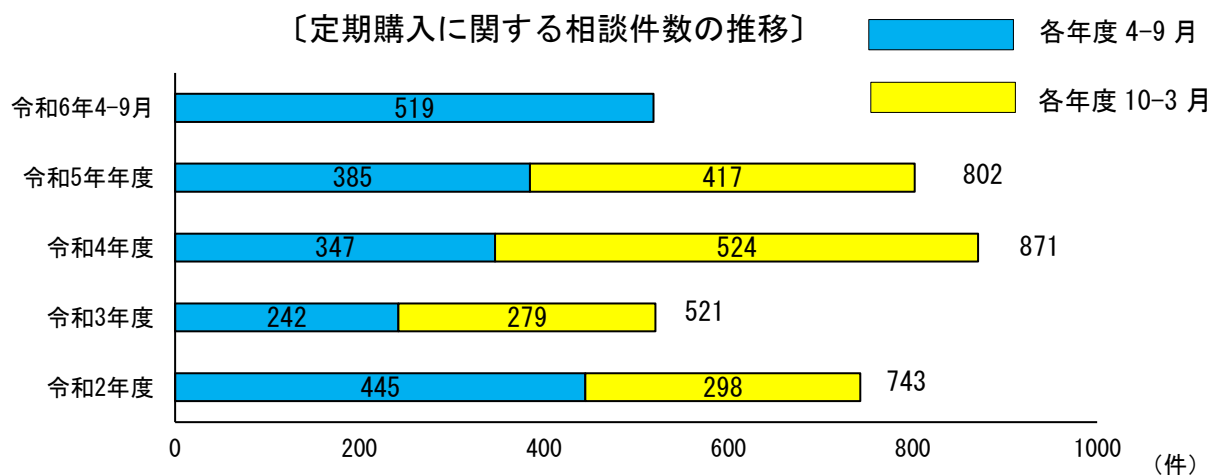
(1) 定期購入に関する相談が増加

令和6年4-9月の定期購入に関する相談は519件で、前年同期より134件(34.8%)増加しました。過去5年間の相談件数を見ると、令和6年4-9月が最も多くなっていることがわかります。

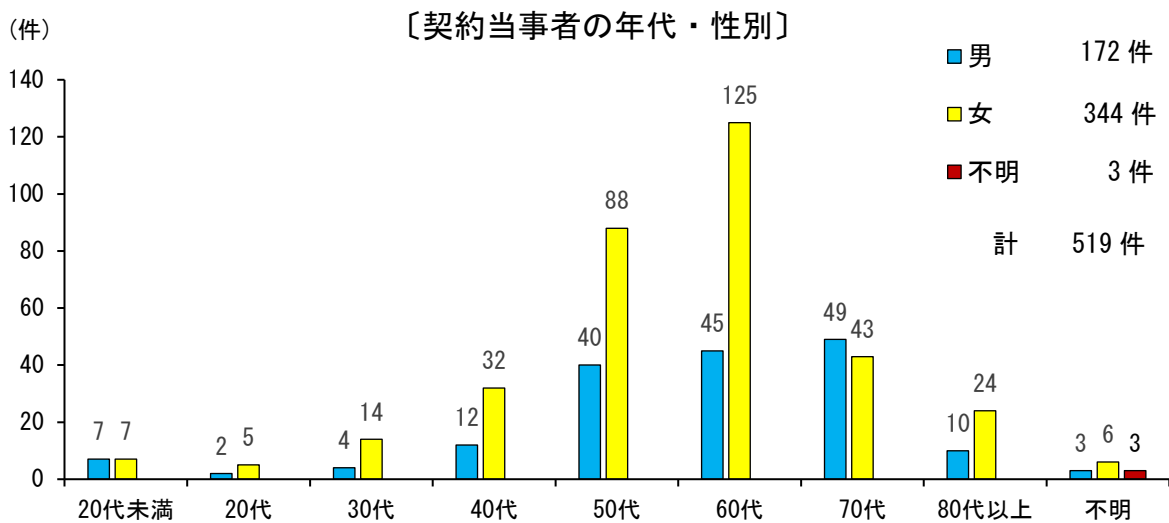
また、対象となる商品は化粧品が最も多い284件で、前年同期より73件(34.6%)増加、次いで健康食品が186件で、前年同期より90件(93.8%)増加しています。

(単位：件)

商品・役務名		令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	化粧品	284	211	73	134.6%
2	健康食品	186	96	90	193.8%
3	医薬品	17	7	10	242.9%
	その他	32	71	▲39	45.1%
計		519	385	134	134.8%



契約当事者の年代・性別でみると、60代女性が125件と最も多く、次いで50代女性が88件となっています。性別では、女性が344件と、全体の66.3%を占めています。



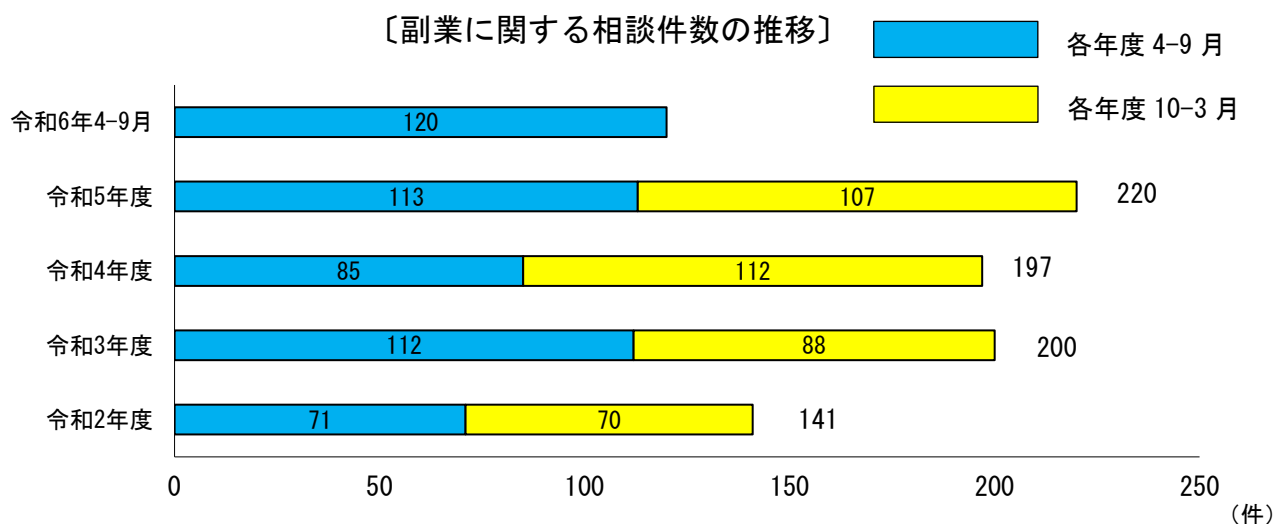
(2) 副業に関する相談が増加

令和6年4-9月の副業に関する相談は120件で、前年同期より7件(6.2%)増加しました。過去5年間の相談件数の推移を見ると、令和6年4-9月が最も多くなっていることがわかります。

収入を得るためのマニュアルの購入費用やサポート費用など様々な名目で請求される費用を、消費者金融から借りて支払うよう強要されたものの、全く収入を得ることができず債務整理をする事態に陥った事例も少なくありません。

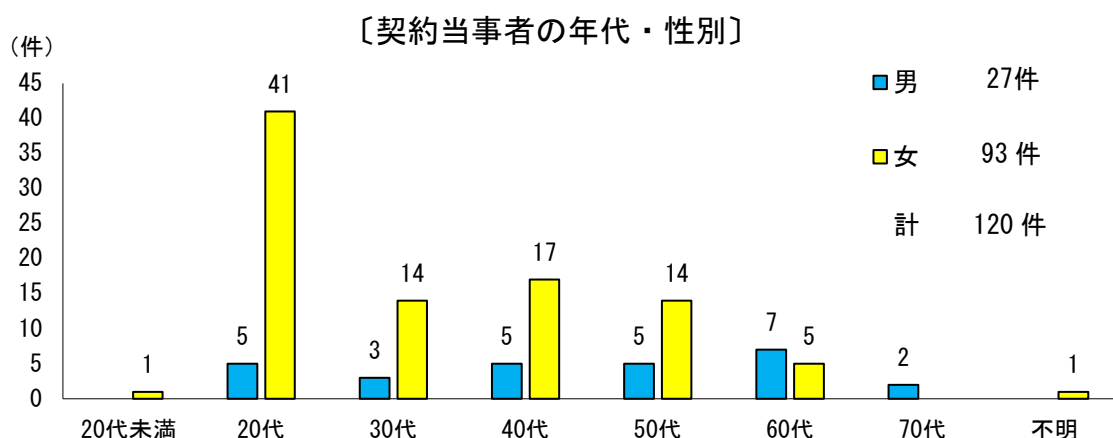
(単位：件)

	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相 談 件 数	120	113	7	106.2%



契約当事者の年代・性別の特徴を見ると、20代女性の41件が最も多く、次いで40代女性の17件となっています。20代以下が全体の39.2%を占めていますが、前年同期には47.8%を占めていたことから、20代以下が占める割合が減少しました。

一方、性別では、女性が93件と全体の77.5%を占めています。



副業に関する相談に係る既払金額を見ると、最大既払金額は減少していますが、お金を払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額が増加しており、被害が拡大していることがわかります。

背景には、遠隔操作ソフトなどをインストールさせうえで、消費者金融から限度額いっぱいまで借入れをして支払わせる手口が多くなっていることなどが考えられます。

(単位：件)

	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	58人	52人	6人	111.5%
既払金額合計	56,531千円	36,453千円	20,078千円	155.1%
平均既払金額 (一人当たり)	975千円	701千円	274千円	139.1%
最大既払金額	5,400千円	5,700千円	▲300千円	94.7%

(3) 18歳・19歳の相談状況

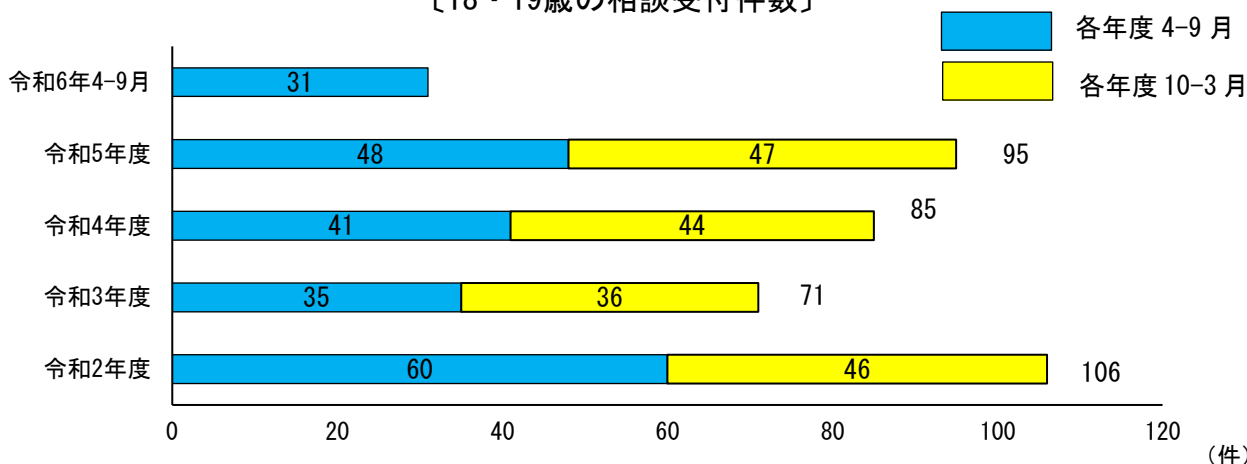
① 概況

令和4年4月1日から改正民法が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これに伴い、これまで未成年者取消権により、契約の取消しが可能だった、18歳・19歳の契約に関するトラブルが懸念されることから、この年代の相談状況に注目しています。

令和6年4-9月の18歳・19歳の相談件数は31件で、前年同期より17件(35.4%)減少しています。

過去5年間の同時期の18歳・19歳の相談件数を見ると、過去5年間で、最も少なくなっていることがわかります。

[18・19歳の相談受付件数]



② 18・19歳の主な商品・役務別の相談状況

令和6年4-9月の18歳・19歳の相談では、サプリメントの定期購入などの食料品に関する相談が7件と最も多くなりました。次いで不審なメールなどの商品一般、オンラインゲームなどの教養・娯楽サービス、副業のサポートなどの他の役務に関する相談が同数となっています。

(単位：件)

	商品・役務名	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	食料品	7	2	5	350.0%
2	商品一般	4	5	▲1	80.0%
	教養・娯楽サービス	4	11	▲7	36.4%
	他の役務	4	0	4	-
3	金融・保険サービス	3	0	3	-
	その他	9	30	▲21	30.0%
	計	31	48	▲17	64.6%

4 65歳以上の高齢者の状況

(1) 全般

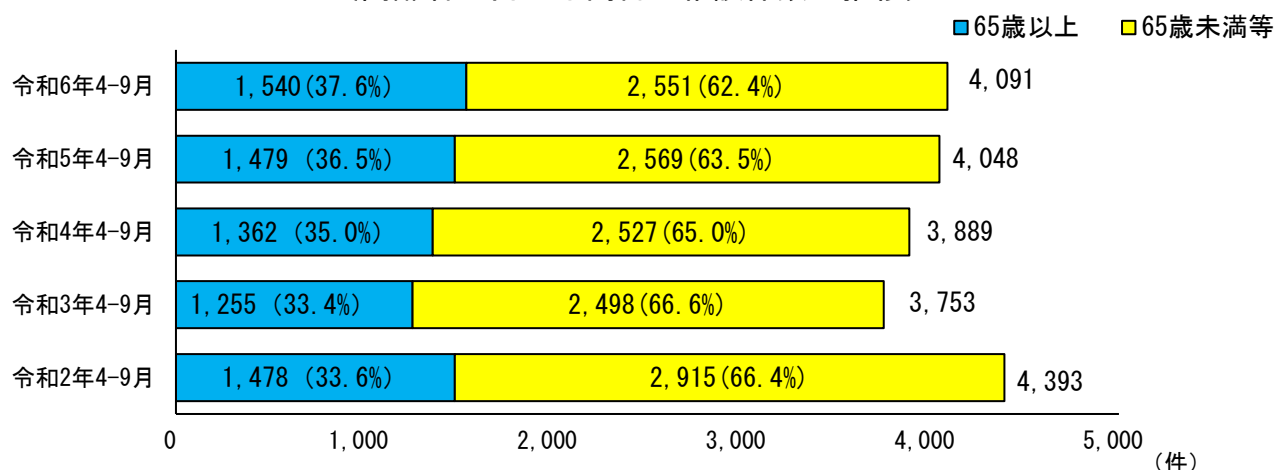
① 概況

令和6年4-9月の高齢者の相談は1,540件で、前年同期と比較して61件(4.1%)増加しています。相談全体に占める割合は37.6%で前年同期の36.5%から1.1ポイント増加しています。

(単位：件)

項目	年度	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		1,243	1,214	29	102.4%
問合せ		297	265	32	112.1%
計		1,540	1,479	61	104.1%

〔高齢者の占める割合と相談件数の推移〕



② 高齢者の主な商品・役務別の相談状況

令和6年4-9月の高齢者の相談では、不審な電話やメールなどの「商品一般」に関する相談が244件と最も多く、前年同期より43件(21.4%)増加しています。

次いで多いのは、運輸・通信サービスの200件で、前年同期より52件(35.1%)増加しています。光回線などのインターネット通信サービスに関する相談や、固定電話に関する相談が多くなっています。

次いで、食料品の173件で、前年同期より48件(38.4%)増加しています。健康食品の定期購入に関する相談が増加したことが主な要因となっています。

(単位：件)

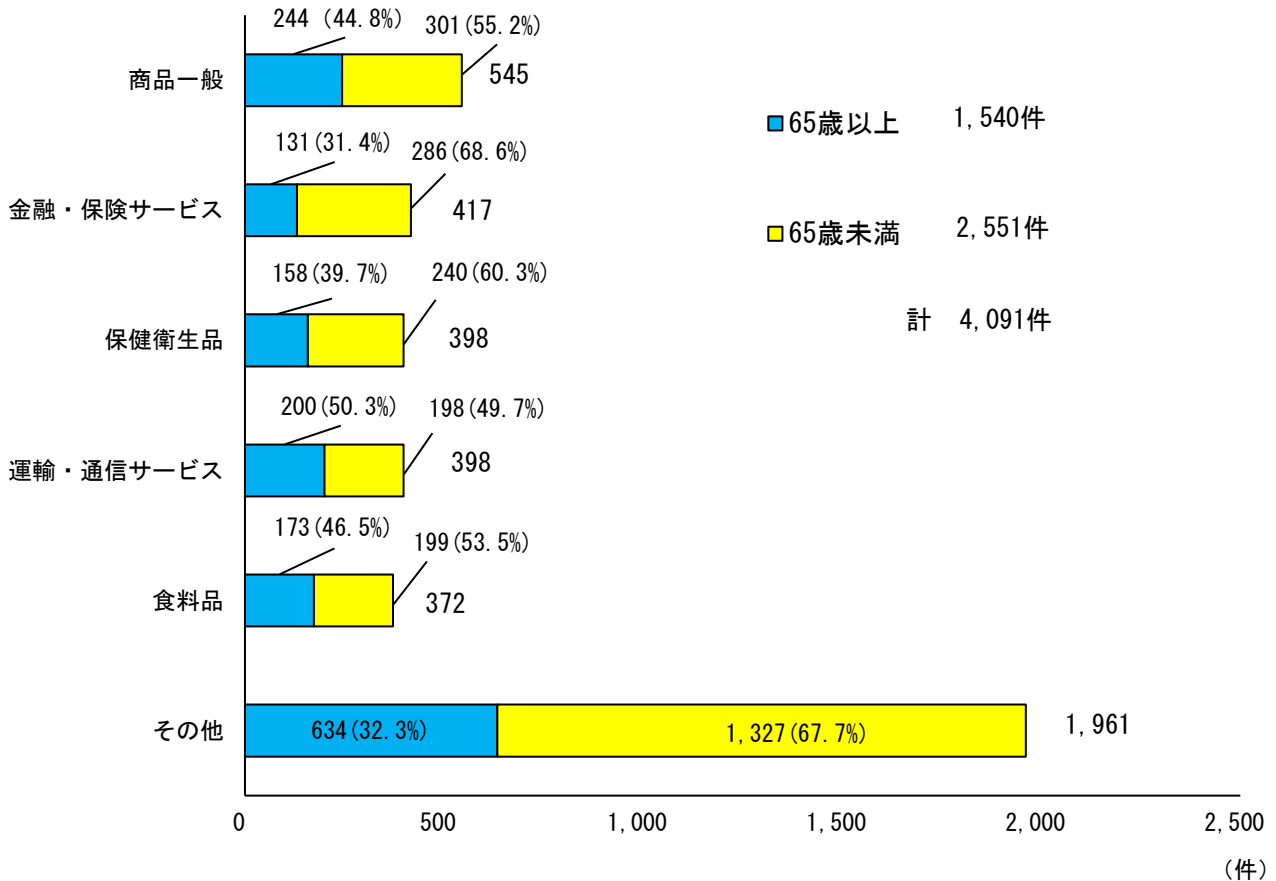
	商品・役務名	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	244	201	43	121.4%
2	運輸・通信サービス	200	148	52	135.1%
3	食料品	173	125	48	138.4%
4	保健衛生品	158	132	26	119.7%
5	金融・保険サービス	131	124	7	105.6%
	その他	634	749	▲115	84.6%
	計	1,540	1,479	61	104.1%

〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕

主な商品・役務別の相談に占める高齢者の割合をみると、「運輸・通信サービス」に関する相談が50.3%と最も高くなっています。通信関係の知識に乏しい高齢者に対し、固定電話のデジタル化により、光回線に変更しなければならないと言って光回線の契約をさせるインターネット接続回線に関する相談や「あと2時間で電話が使えなくなる」という不審電話に関する相談が多くなっています。

次いで、「食料品」に関する相談が46.5%となっています。高齢者においても健康食品の定期購入に関する相談が多数ありました。

〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕



③ 高齢者の相談に係る契約等の既払金額

高齢者の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額のすべてが増加しています。

(単位：件)

	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	310人	290人	20人	106.9%
既払金額合計	205,515千円	178,770千円	26,745千円	115.0%
平均既払金額 (一人当たり)	663千円	616千円	47千円	107.6%
最大既払金額	40,000千円	36,000千円	4,000千円	111.1%

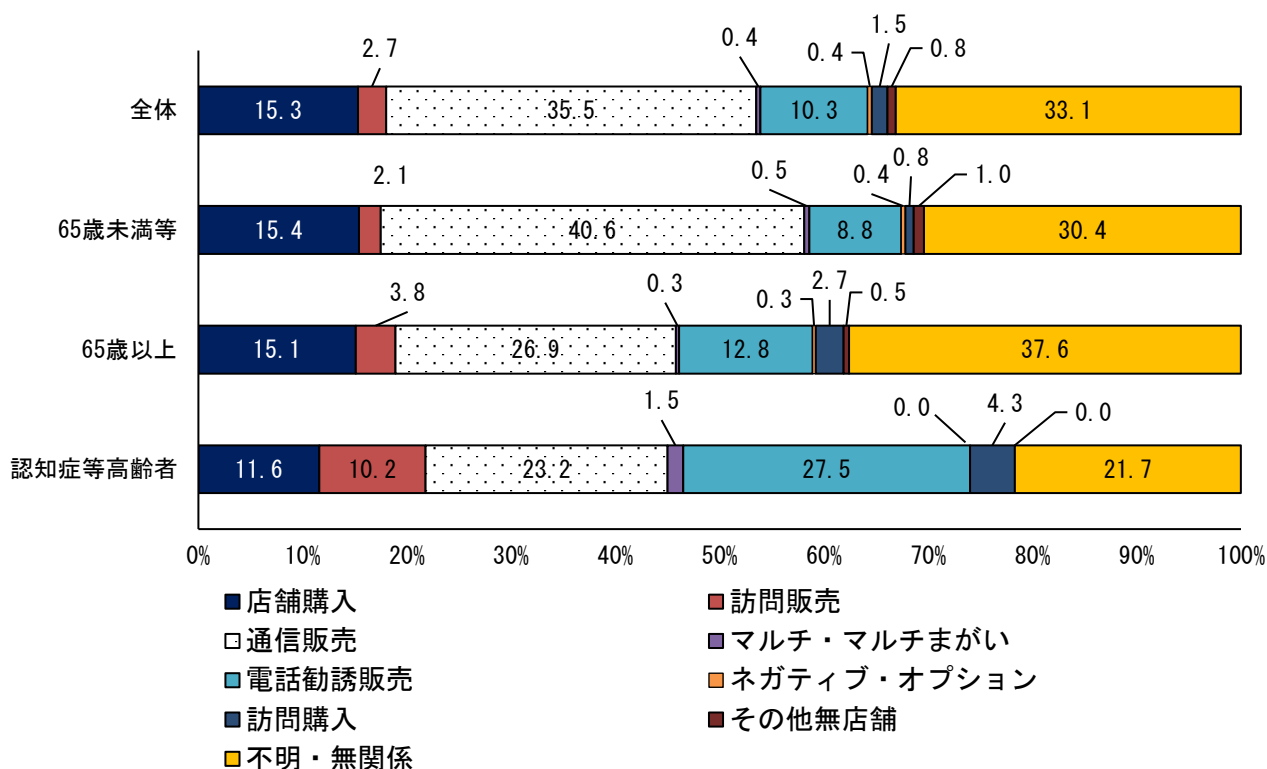
④ 販売購入形態別相談割合

販売購入形態別で見ると、65歳以上では、65歳未満等と比べて訪問販売や電話勧誘販売が多く、特に認知症等高齢者においてその傾向は顕著です。認知症等高齢者の判断力不足に乘じ、悪質な訪問販売や電話勧誘販売が行われていることがうかがえます。

その認知症等高齢者については、通信販売が23.2%となり、前年同期(16.7%)よりも6.5ポイント増加しています。

その他、65歳以上で不明・無関係が多くなっているのは、還付金詐欺や不審な電話やメールの相談がここに分類されることも要因の一つとなっています。

〔販売購入形態別 相談割合（％）〕



（２）高齢者の特殊詐欺の状況

① 概況

高齢者の特殊詐欺に関する相談件数は119件で、前年同期より22件（15.6％）減少しています。類型別にみると、振り込み詐欺が61件（相談件数の51.3％）と最も多く、次いでフィッシング詐欺の23件（同19.3％）となっています。

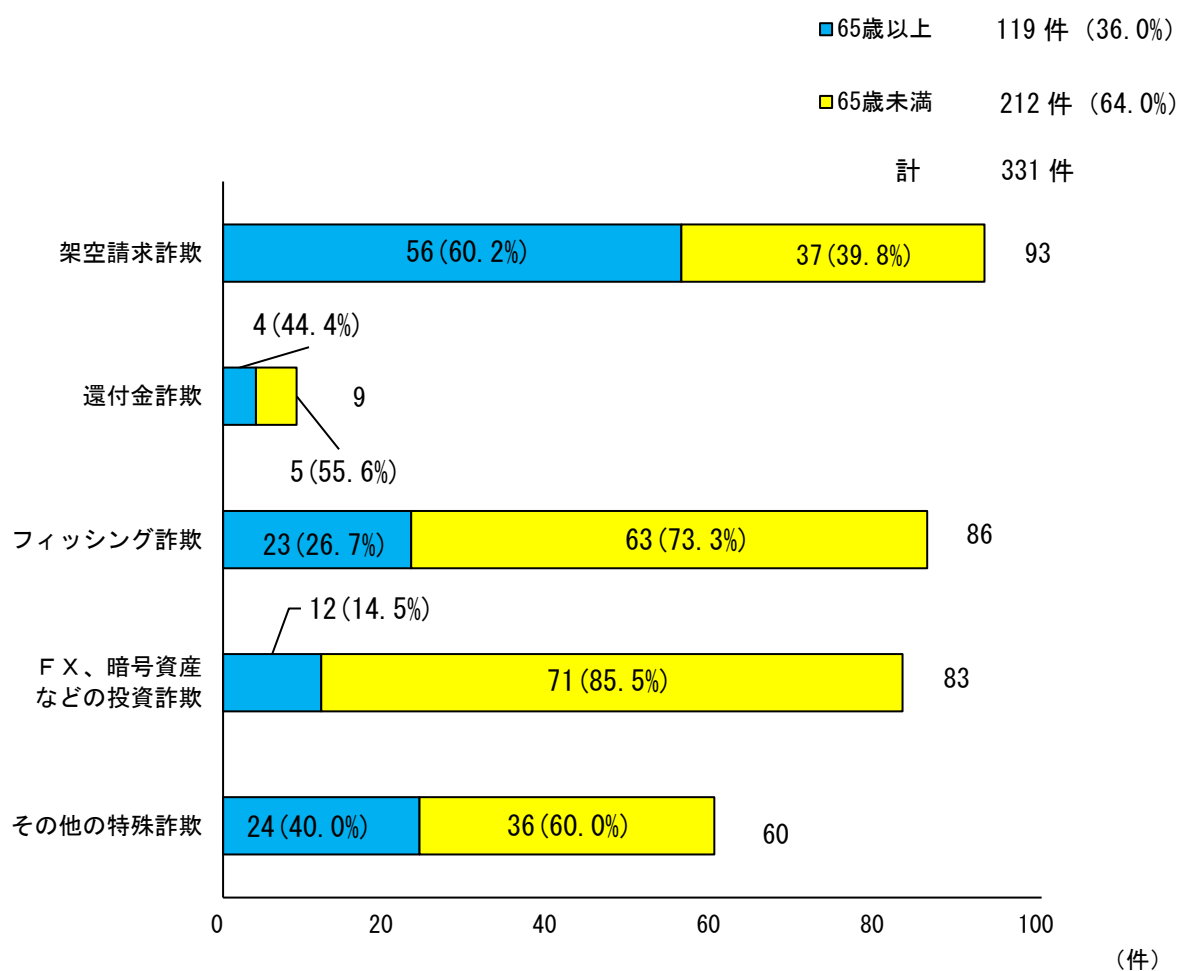
昨年増加した老人ホームの入居権詐欺の相談が0件となったことが、高齢者の特殊詐欺の相談が減少した大きな要因となっています。

（単位：件）

類 型	年 度		増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)		
振り込み詐欺	61	53	8	115.1%
架空請求詐欺	56	50	6	112.0%
還付金詐欺	4	3	1	133.3%
融資保証金詐欺	0	0	0	-
オレオレ詐欺	1	0	1	-
フィッシング詐欺	23	34	▲11	67.6%
ウイルス感染の偽警告（サポート詐欺）	16	7	9	228.6%
F X ・暗号資産などの投資詐欺	12	11	1	109.1%
出会い系サイト・アプリ	5	2	3	250.0%
ワンクリック詐欺	2	9	▲7	22.2%
老人ホームの入居権詐欺	0	25	▲25	-
合 計	119	141	▲22	84.4%

② 特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合

特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合は、架空請求詐欺が60.2%と最も高く、次いで、還付金詐欺が44.4%となっています。



③ 高齢者の特殊詐欺に係る既払金額

高齢者の特殊詐欺の相談に係る既払金額の状況をみると、お金を払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額のすべてが増加しています。

	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年比 (a/b)
お金を支払った人の数	16人	13人	3人	123.1%
既払金額合計	52,484千円	23,342千円	29,142千円	224.8%
平均既払金額 (一人当たり)	3,280千円	1,796千円	1,484千円	182.6%
最大既払金額	30,000千円	10,080千円	19,920千円	297.6%

5 多重債務に関する相談の受付状況

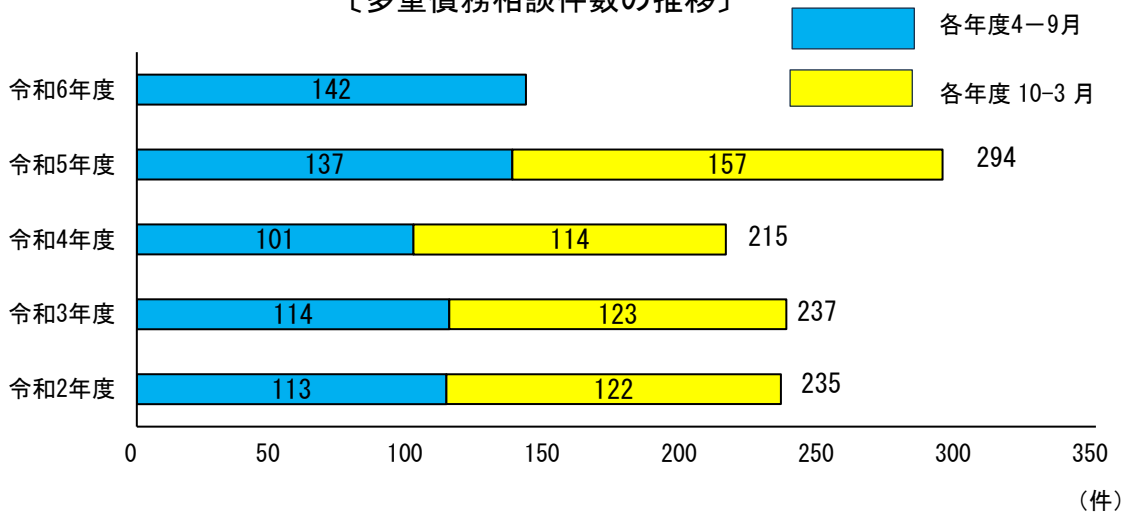
令和6年4-9月における多重債務に関する相談件数は142件で前年同期より5件（3.6%）増加しています。

（単位：件）

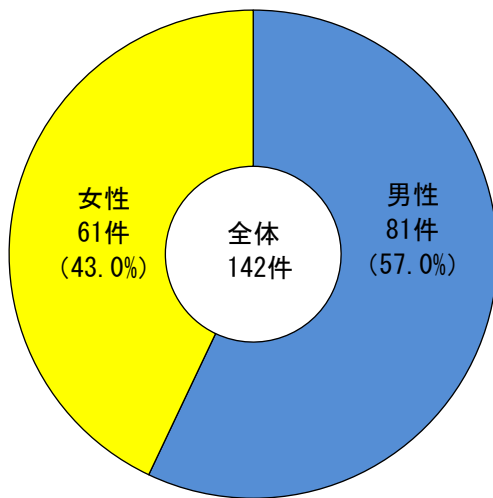
	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
相談件数	142	137	5	103.6%

過去5年間の多重債務に関する相談件数を見ると、令和5年度に増加に転じてから、引き続き増加傾向が続いています。

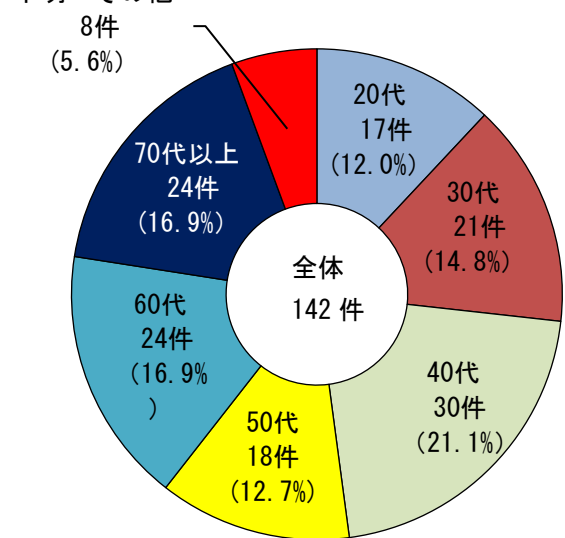
〔多重債務相談件数の推移〕

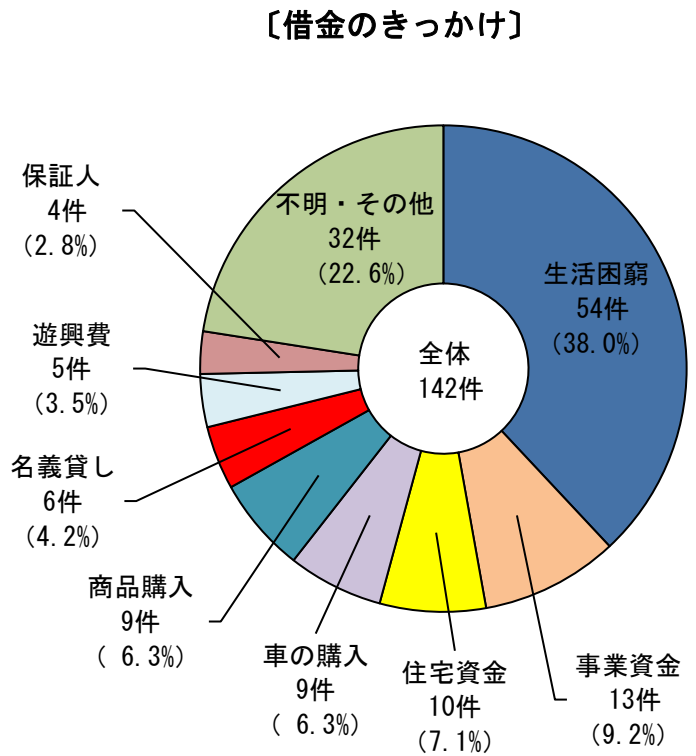
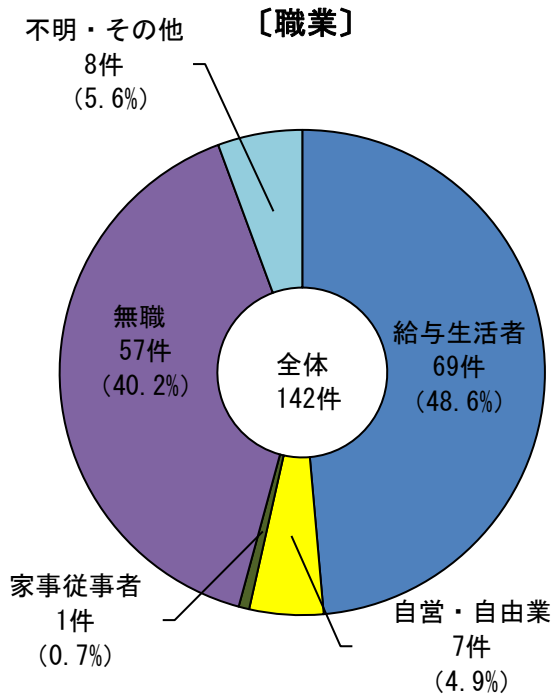


〔性別〕



〔年代〕





6 ヤミ金などの相談の受付状況

令和6年4-9月におけるヤミ金などに関する相談件数は11件で、前年同期より3件（37.5%）増加しています。

（単位：件）

	令和6年 4-9月 (a)	令和5年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
ヤミ金	7	8	▲1	87.5%
融資保証金詐欺	3	0	3	-
借金整理屋	0	0	0	-
ショッピング枠現金化	1	0	1	-
計	11	8	3	137.5%

7 商品・役務別相談内訳

(単位：件)

		令和6年4-9月		令和5年 4-9月	増減
			構成比 (%)		
商 品	商品一般	545	13.3	515	30
	食品	372	9.1	268	104
	住居品	117	2.9	119	▲2
	光熱水品	86	2.1	93	▲7
	被服品	141	3.4	176	▲35
	保健衛生品	398	9.7	347	51
	教養娯楽品	221	5.4	271	▲50
	車両・乗り物	108	2.6	117	▲9
	土地・建物・設備	66	1.6	80	▲14
	他の商品	11	0.3	17	▲6
	小計	2,065	50.4	2,003	62
役 務	クリーニング	7	0.2	26	▲19
	レンタル・リース・貸借	162	4.0	154	8
	工事・建築・加工	83	2.0	110	▲27
	修理・補修	41	1.0	45	▲4
	管理・保管	3	0.1	0	3
	役務一般	35	0.9	47	▲12
	金融・保険サービス	417	10.2	374	43
	運輸・通信サービス	398	9.7	320	78
	教育サービス	6	0.1	11	▲5
	教養・娯楽サービス	281	6.9	267	14
	保健・福祉サービス	128	3.1	155	▲27
	他の役務	271	6.6	342	▲71
	内職・副業・相場	40	1.0	31	9
	他の行政サービス	16	0.4	21	▲5
小計	1,888	46.2	1,903	▲15	
他の相談	138	3.4	142	▲4	
合計	4,091	100.0	4,048	43	

商品 主な 相談 の	<ul style="list-style-type: none"> ① 商品一般（商品を特定できないもの） ② 保健衛生品（化粧品、医薬品、医療用具） ③ 食料品（健康食品、魚介類、飲料） ④ 教養娯楽品（他の教養娯楽品、音響・映像製品、電話機・電話機用品） ⑤ 被服品（紳士・婦人洋服、アクセサリ、他の身の回り品）
役務 主な 相談 の	<ul style="list-style-type: none"> ① 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービス、預貯金・証券等） ② 運輸・通信サービス（インターネット通信サービス、電報・固定電話） ③ 教養・娯楽サービス（他の教養・娯楽、娯楽等情報配信サービス、教室・講座） ④ 役務その他、外食・食事宅配、冠婚葬祭） ⑤ レンタル・リース・貸借（不動産貸借、レンタルサービス）